



化学部門で今野 巧 大阪大学教授の講演会を開催

【概要】

令和 3 年 10 月 28 日(木)に理工学部化学部門にて、大阪大学大学院理学研究科化学専攻の今野 巧 教授による講演会を開催しました。

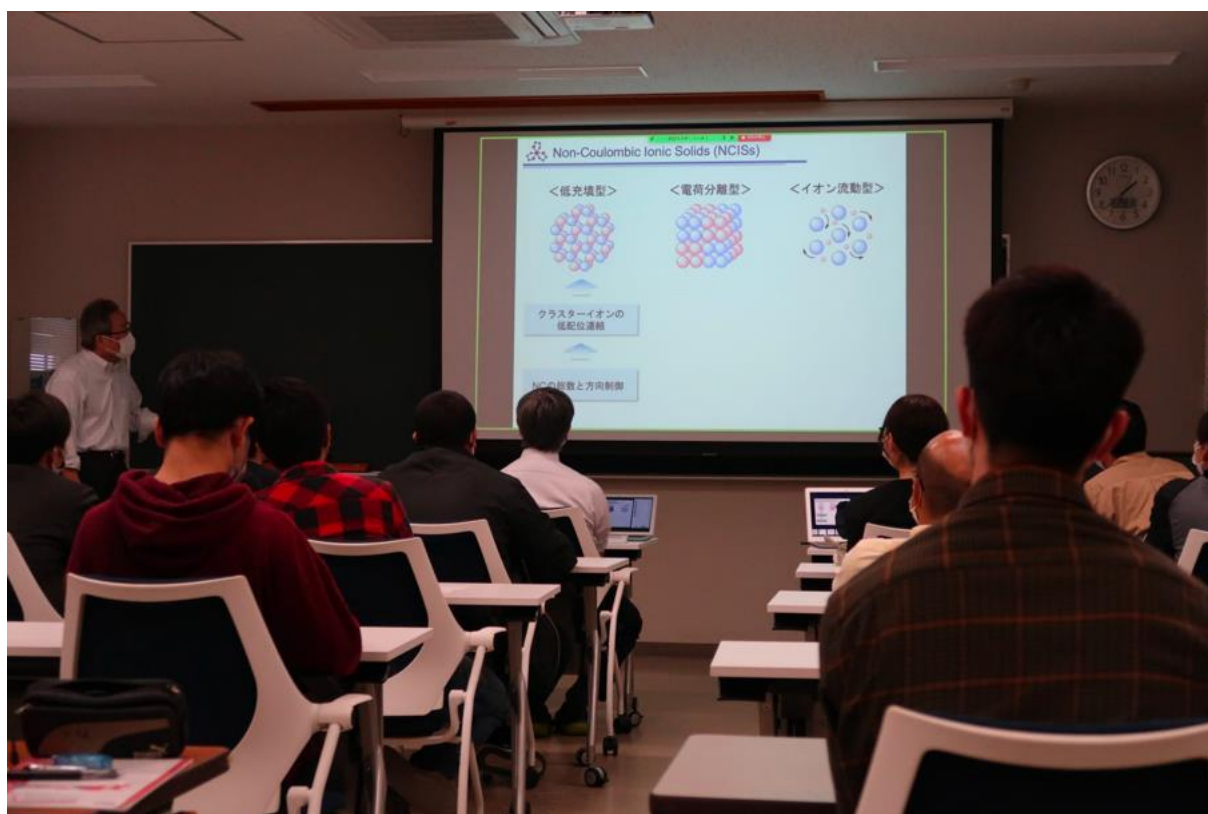
【本文】

令和 3 年 10 月 28 日(木)に理工学部化学部門にて、大阪大学大学院理学研究科化学専攻錯体化学研究室の今野 巧 教授による「単純なチオール系配位子から多彩な金属化合物を創るー非クーロン性イオン固体への展開ー」と題した講演会を開催しました。

これまで今野教授は、単純なチオール系配位子を用いて、キラルな「錯体配位子」として働く金属錯体を合成し、この種の錯体配位子と金属イオンとの反応により、様々な多核金属錯体や超分子錯体を合成してこられました。これらは 2013 年～2020 年の JST-CREST の事業に関するもので、従来の常識を大きく変える画期的な成果でした。今回の講演では、これら錯体配位子を基盤とする錯体集積化に関する研究について、近年進めてきた「非クーロン性相互作用が空間配列を支配する新しいタイプのイオン性固体 (Non-Coulombic Ionic Solid)」に焦点を当てて講演していただきました。

本講演会は新型コロナウイルスの新規感染者が減少したことを踏まえ、対面参加と同時に、感染拡大防止のため Zoom を用いたオンライン配信も同時に行いました。280 余枚ものスライドから厳選されたもので 1 時間ほどの講演をしていただきましたが、楽しそうに話される今野教授の講演に聴講者は一様に引き込まれ、多くの質問が寄せられる熱気ある講演会となりました。

本講演会は西九州化学工学懇話会主催のもと、懇話会会員の化学部門 大渡 啓介 教授の企画により開催されました。参加者は、化学部門の教員と学生、ならびに西九州化学工学懇話会の関係者で、対面・オンラインを合わせて 37 名でした。



今野教授の提案された非クーロン性相互作用が空間配列を支配する
新しいタイプのイオン性固体



今野教授に質問する化学部門の鯉川教授